



約30年で姿を消した 幻の城、敦賀城

敦賀西小学校の発掘調査で
敦賀城の建物跡が出土

かつて敦賀に築かれていた「敦賀城」を
ご存知でしょうか。

敦賀城は、天正11年（1583）に秀吉の家臣であった蜂屋頼隆が築城に着手。天正17年（1589）に頼隆が病死した後、大谷吉継が領主となり、整備拡充したと伝えられています。しかし、1600年の関ヶ原の戦いで吉継は自害し、1615年に江戸幕府が発令した一国一城令により、築城からわずか30余年で姿を消しました。長く文献でしか知られていなかったため「幻の城」とも言われてきました

が、2010年に行われた敦賀西小学校新校舎建設に伴う発掘調査で敦賀城の築かれた16世紀末頃の建物跡が出土。地下約2メートルの地層から柱を置いた礎石や同時代の陶磁器、瓦などが発見され、改めてその存在に注目が集まりました。

**大谷吉継が町割りし、
敦賀湊の基礎を築く**

遺構や伝承から推定される敦賀城の立地は、旧笹ノ川河口域の左岸付近。現在の結城町と三島町1丁目にまたがる南北約500メートル、東西約300メートルの範囲に当たります。敦賀城は水城で、慶長国絵図に記さ

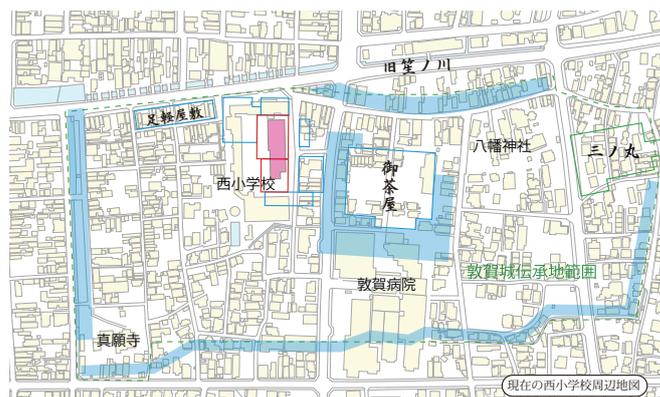
れた敦賀城には三層の天守が描かれています。敦賀城の領主となった大谷吉継は、旧笹ノ川河口左岸の低湿地を埋め立てて城域を整備し、右岸の町割を行いました。吉継は地方支配に優れた統治者で、当時の敦賀が軍事・物流の最重要拠点であったことから敦賀湊の発展につながる都市計画や商人の育成に努めました。一国一城令で廃城となった後の敦賀城跡には小浜藩の陣屋・奉行所・代官所などが建てられ、明治の廃藩置県後で敦賀県となると県庁がおかれました。

敦賀西小学校近くにある敦賀市文化振興課分室には、敦賀西小学校からの出土遺物を展示しています。遺構が出土した敦賀西小学校校門前には、そんな敦賀城の足跡を記した石碑が建てられており、往時を偲ぶことができま

まちなかに残る敦賀城の伝承

そのほかにも敦賀城の伝承は点在しています。八幡神社には、敦賀城の欄間や礎石、鬼瓦、吉継が寄進したとされる石灯籠などが残っており、来迎寺には敦賀城中門、客殿には腰高障子（県文化財指定）が現存しています。真願寺の境内には、敦賀城の乾門跡の礎石が残り、城跡碑が建てられています。次第に春めき、町歩きが楽しくなるこれからの季節、幻と言われた敦賀城の足跡を辿り、歴史に思いを馳せるのも一興です。

（お問い合わせ）
● 気比史学会（川村）
TEL 090・2092・8247



敦賀城があったと推定されるエリア。敦賀西小学校を中心に結城町と三島町にまたがる範囲が該当します。

提供／敦賀市教育委員会



敦賀城の遺構が出土した敦賀西小学校前の石碑。「敦賀城の跡」と題され、城とその後の歴史について紹介しています。



文化振興課分室に展示された敦賀町奉行所跡の出土遺物。このうちのいくつかは敦賀城の時代に遡る可能性があります。提供／敦賀市教育委員会



来迎寺の木製加飾腰高障子（13枚の中の2枚）／桃山時代。敦賀城から伝わったとされるもので、県の文化財に指定されています。